

平成 29 年 7 月 12 日

国土交通省横浜国道事務所 御中
東日本高速道路株式会社横浜工事事務所 御中
横浜市長 林文子様

神戸橋連絡会
西ヶ谷ハイツ道路委員会
高村鈴子

要 望 書

神戸橋周辺住民は、神戸橋の橋梁区間の蓋かけ・一部ルーバー構造計画に対し、完全蓋かけを要望します。

神戸橋周辺住民は、工事を進めるにあたって、「単に環境基準を守るというのではなく、事業によって良好な環境を悪化させない。神戸橋周辺住民に対して迷惑をかけないなど 現況非悪化の約束を守ることを要望し続けてきました。

事業評価監視委員会の付帯意見においても「本件が良好な住宅地に建設される、わが国の将来にとって極めて重要な事業であることに鑑み、これまで蓄積されてきた高規格幹線道路の整備における環境対策の経験を十分に活用し、環境対策に積極的に取り組むことを望む。」とあります。

また、横浜市栄区のまちづくり区長懇話会で提供された資料（平成 21 年）には、「都市計画された美しいまち」として庄戸から桂台西までの住宅地は紹介されています。その「美しいまち」の真ん中を高速道路が通るわけですから、最大限の環境対策を図るべきと考えます。

1995 年から 1996 年の 1 年間かけて、旧建設省が行った接地逆転層測定調査により、谷戸地形の神戸橋地域は、接地逆転層の頻度が季節を問わず、一年中起きている地域であること、排ガスが滞留しやすい所であるとわかりました。住民にとって排ガスによる健康への影響は最大の不安要因の一つでもあります。ルーバーからの排ガスの漏れ出しは、どのくらいあるのか示して下さい。

神戸橋橋梁部でのルーバー設置はどうして必要なのか、どうして完全蓋かけではダメなのか理由を具体的に示して下さい。

トンネル内車両火災など防災上るーばーが必要と聞いているが、具体的にどのような対策が考えられるか、完全蓋かけ時とルーバー設置時と比較して回答して下さい。

中央環状線の山手トンネルは日本で最長の道路トンネルと聞いているが、延長はいくらか。

開口部はあるのか。山手トンネルに開口部がないなら、山手トンネルより短いこちらのトンネルで開口部が必要な理由は何か。

中央環状線ではどのような防災対策が取られているのか伺いたい。

防災上開口部が必要とのことだが、開口部を設けなければならないという法や規定を示してほしい。

基本的なものに戻りますが、神戸橋橋梁部に設置予定しているルーバーはどのようなものか。どのくらいの長さで設置しようとしているのか。検討するためにシミュレーションを行ったのであれば、結果を示してほしい。

完全蓋かけにした場合、公田や釜利谷の環境負荷が大きくなるというが、換気塔で上空高く吹上げ、拡散するので、各地域における排気ガスの到達濃度で考えなくてはならないのではないかと。風向・風力によっては、神戸橋周辺地域や庄戸地区への到達濃度の方が、換気所周辺や公田地区よりも高くなるのではないかと考えます。排ガスの地域分担を公平にするためルーバー設置とも聞いているが、完全蓋かけをした場合とルーバー構造の場合と比較して説明をしてほしい。シミュレーションを行ったのであるなら、その結果を示してほしい。

公田換気所への低濃度脱硝装置をつける等機能アップで対応を図るよう要望します。

良好な住宅地で空気がきれいであるから環境基準までは十分余裕があるから、換気所能力をアップする必要はないではなく、良好な住宅地であるからこその環境対策をとった先例として、是非取り組んでいただきたいと思います。

また、最近では、PM2.5や様々な有害物質がPM2.5に付着し健康被害が出ているが、公田換気所の機能はこれらに対応しているのか。具体的に示してほしい。

庄戸合同道路委員会は公害調停の条項に沿い、事業者と神戸橋橋梁部分の完全蓋かけについても協議を行っていると聞いていますが、他工区にまたがるとはいえ情報の提供をお願いしたい、また同じ場に同席できないか検討をして頂くことを望みます。

以上

連絡先

高村 鈴子

247-0024

横浜市栄区野七里1-2-7-751

080-1025-2108

swqr_tkmr@adagio.ocn.ne.jp